多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

いろれずい通信の



Index



P2 特集 たまふれあいグループホーム登戸新町の日常

- P5 第3回たまふれあいグループ多職種連携感謝セミナーのご案内
- P6 ケアマネ相談室 File 6 たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その7
- P8 スタッフ紹介 たまレポ! グループホーム登戸新町 介護スタッフ 根本 義博さん





7:30 朝食 9:00 体操 10:00 配茶

入浴

GHではめずらしい機械浴を 設置しています。車いすの方 も安心して肩まで入湯いた だけます。







▮訪問診療・訪問看護

たまふれあいグループのクリニックによる訪問診療や、週1回の訪問看護を実施。医師も 看護師も同じグループの仲間だから、ご入居者の体調に不安がある時はいつでも気兼ね なく相談できる関係性があります。GHの全国調査では「医療ニーズのあるご入居者でも、 介護職員が安心して対応できている」と回答したのは約25%(※)でしたが、GH登戸新町 の介護職員は「皆が安心して対応できている」と胸を張って答えることができます。

日常の中にあるGH登戸新町の強み

グループの多職種が連携してご入居者の生活を支えています。日常生活

※出典:令和2年度介護報酬改定検証・研究調査「認知症対応型共同生活介護等における平成30年度報酬改定の





12:00 昼食

言語聴覚士(ST)による嚥下 チェックを実施しています。介護 スタッフのさじ加減になりやす いとろみの強さやきざみ食な ど食事形態の判断にSTが介入 しているため、安心・安全な食 事を楽しんでいただけます。



15:00 おやつ&午後のレク Next Page

型学療法士(PT)

介護スタッフへの指導のためにPTが訪問。移乗の 仕方や生活動作の注意点を実地指導しました。指導 内容を録画して、介護スタッフは復習を欠かしません。

> 17:30 夕食 21:00 就寝







がたまふれあいグループホーム

登戸新町の日常



サ辻 雅貴

たまふれあいグループホーム登戸新町(GH登戸新町)は2020年6月にオープン したグループ第2号となる入居施設です。地域に根差した場所になれるよう、1階 に地域交流室、2階に屋外交流スペースを設けた3フロア(定員27名)で構成さ れています。今月の特集では、このGH登戸新町の日常とスタッフの工夫がうか がえる取り組みをご紹介します。







2周年を記念してご入居者と一緒に制作しました。 地域の皆様にもご覧いただけるように、 1階の窓に設置しました。







ふれあい通信 2023年2月号 ふれあい通信 2023年2月号 たまふれあいグループ

多職種連携感謝セミナー



幸せな在宅死に向けて

垣添 忠生先生

国立がんセンター名誉総長 公益財団法人日本対がん協会会長



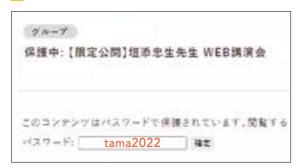
今回のセミナーでは、国立がんセンターの名誉総長というがん治療の最高峰を極めながら、がんを患った最愛の奥様をご自宅 で看取られた、垣添忠生先生をお招きいたします。現在は公益財団法人日本対がん協会会長として、全がんの対策にご尽力され ています。在宅医療の原点に立ち返り、患者さんやご家族などの身近な方々がよかったと思える看取りのため、われわれにでき ることは何か、このセミナーを通して共に考える時間をもてればと願っております。

お申し込み方法

関係者様限定公開! 講演動画をオンライン配信にて無料でご視聴いただけます(公開期間限定)。 お申し込みのメールアドレスに後日、視聴のURLをお送りします。

パソコンから

- 1 たまふれあいグループサイトのお知らせにアクセス https://tama-fureai.com/news/1357/
- 2 パスワードに tama2022 と入力



- 3 記事内のリンクをクリック⇒お申し込みフォームへ
- 4 お申し込みフォームを入力して、ページ最下部の 「同意して申し込む」をチェックして送信ボタンを押す





スマホから



1 スマートフォンで下記の2次元コードを読み込む





2 お申し込みフォームを入力して、ページ最下部の 「同意して申し込む |をチェックして送信ボタンを押す

垣添忠生先生プロフィール

生年月日:1941年4月10日 出生地:大阪

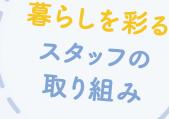
1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学医学部附属病院で研修し、東 京都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿 器科文部教官助手を務める。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤 務終了後、夜、国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がん センター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長 を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任。 2007年3月国立がんセンターを退職し、4月より同名誉総長、公益財団法人日本対 がん協会会長に就任。

専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては 今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全 がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立 がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞を受賞、な らびに瑞宝重光章などを受章、2019年12月より日本学士院会員。

主な著書: 『発がんからみた膀胱がんの臨床』 (メジカルビュー社)、『がんと人間』 (共著 岩波新書)、『患者さんと家族のためのがんの最新医療』(岩波書店)、 『前立腺がんで死なないために』(中央公論社)、『妻を看取る日』(新潮社)、『悲し みの中にいる、あなたへの処方箋』(新潮社)、『がんと人生』(中央公論新社)、『巡 礼日記 亡き妻と歩いた600キロ』(中央公論新社)など。







お正月

1階の地域交流室を活用して、お部屋全 体を神社に仕上げました! ひとつひと つが職員の手作りによるものです。入り 口から参道気分を味わえるように出店 も並びます。壁にはご入居者作成の紙 のお花で富士山を描いた

力作も! グループの他施設 のご利用者も参拝 に来てくれました。









足湯

スタッフの提案で手作 りの足湯ができました! 「気持ちいいー!」とご 入居者は笑顔。この日 はGH登戸新町の3フロ アから各1名が参加。ご 入居者同士の交流に役 立てます。





ふれあい通信 2023年2月号

ふれあい通信 2023年2月号

地域で暮らし 地域で生きる ということ。

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。

世の中がどれほど発達したとしても、 人々の暮らしは地域の中にあります。

そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、 人が人へ伝えるぬくもりや、やさしさを 超えることはできないと考えています。

だからこそ、私たちは地域に徹底した こだわりを持ち続けます。



地域の人々の、 よりよい生活と人生のために



たまふれあいグループは、医療・介護・福祉・保健事業を 統合的に展開する医療法人グループです。

- ●たまふれあいクリニック 訪問診療/専門外来/訪問リハビリテーション
- ●たまふれあい訪問看護ステーション
- ●たまふれあい居宅介護支援事業所
- ●たまふれあいの森 健康相談/セミナー/健康チェック 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F
- ●たまふれあいグループホーム 枡形 (医療・看取り対応型)
- ●ナース&ケアハウス ふれあい (看護小規模多機能型居宅介護) 川崎市多摩区枡形6-19-8
- ●たまふれあいグループホーム 登戸新町(医療・看取り対応型) 川崎市多摩区登戸新町186
- ●デイサービスふれあい 川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F
- ●たまフレ! (障がい者就労支援事業所) 川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワ10ビル4F







ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます!

一談させ

0 気づき

窓口が把握

in th

な

たまふれあいクリニック

おすすめポイント

住宅型有料老人ホーム

さんもパワフルで活気の

鈴木 忠院長より 🍖 🛚

できてよかったです。8050問題は増えているので、窓口が把いことが分かりました。以外の福祉の新しいは組みに気付いてい以外の福祉を専門にしているので、それ

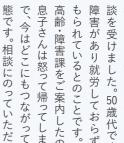
うのは知りませんでした。 基幹相談支援センター

就労に向け - スと判 わ

ラブルも多い様子ですすぐ口にするため、と た。問題行動があ ため、 f相談支援センルれわれの計画 、気にな ること の

くの方に発達障害の可能性がずに長く家にこもっている場へ ずここに相ば

-ビスにつなげて旧談し、その方にていない方の場 ます。



ケアマネ 相談室(File6)



aから、同居する息子さ新規の介護サ-られているとの降害があり就労-を受け 齢・障害課をご案内 るとのことで た。50歳代で したのです 区役所 が精



たでも」「身近な地域でや働くこと、健康・医療 川崎市北部が担当です。 ーが3つあり、多 川崎市には基 山口さん 健康・医療など で「どんなこか」「どんなこか」です。暮らしずなど、「どなる」というない。





0

たまフレ!所長 山口 竜さん

※8050問題:80歳代の高齢者の親と同居している50歳代の単身・無職の子がひきこもり状態にある問題。

いつもありがとうございます!!

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

リアンレーヴ宮前平

C044-976-2970

住宅型有料老人ホーム

、る窓口ですっています

? 帳

O

ケアマネ

木下グループならではの横連携を活用し ご入居者のさまざまなニーズに対応

さん笑って



施設長に専念させてい た。現在は当施設のオ の経験も積んでま プンに伴い います。ご入居者に

施設長

もいらっしゃいます。病院では の施設を展開 内はもちろん 受けて、 を望ま 木下の介護では、首都圏 お元気になられてご自宅へ帰ら いる方も複数組 ん、地方からご入居さ め 、隣接す せんがご夫婦一 ない場所での 横浜市 人保健施設べ お身体の お看取 れる方 動す 0カ所



2018年11月開設 事業主体:株式会社 木下の介護

当施設は、東

ご入居者との 楽しみながら、 アットホームな施設さ 目指しています



崎山 綾子さん

立ち上げの ある施設です。

インタビュイー

グループホ-登戸新町 介護スタッフ 根本 義博さん



地域相談室によるスタッフ紹介

今月のインタビュアー 地域相談室 相談員 進藤 優里



一緒に働くスタッフはもちろん、ご入居者も 仲間だと思っています。楽しい時間を提供 できるように頑張りたいです。

こんにちはたたまふれあい地域相談室です。

今回は、グループホーム(GH)登戸新町の根 本を紹介します。根本は、2020年6月のオープン 当初から働く介護スタッフです。コロナ禍でス タートしたため人同士の交流が難しく、皆さんに 楽しんでいただこうと2階の屋外交流スペースに 花壇を作り、ご入居者と一緒に植物を育て始め ました。

昨年は、ご入居者にもっと楽しい時間を過ごし て笑顔になっていただきたいと、足湯作りを提 案。DIYが得意なスタッフと一緒に、本格的に足 場を作って日よけのすだれを掛けたり、腰を下ろ すベンチを作ったりしたそうです。

根本はもともとイベントの仕事をしていました が、物産展で全国行脚して無理がたたり、40歳を 目前に脳内出血を起こして半年ほど療養生活を 送りました。仕事を再開するにあたり始めたのが 訪問介護の仕事。10年ほど続けた後、仕事の場 をGHに移したそうです。

GH登戸新町にはいろんなご入居者がいて、 楽しい時間を共有できることが仕事のやりがい だと根本は言います。畑仕事も好きなので、近く に畑を借りて「ご入居者と一緒に農作業をする ことが夢 |と話す根本が、皆さんをお待ちしてい ます!

出掛けるのが好きで、 休日はコンサート鑑賞や スポーツ観戦を しています。



「GHの花壇に次は何を植えようか?」。 ついつい園芸店をのぞいてしまうそうです。



ご自宅にはなんとプラネタリウムが! いつか米国のアラスカ州に オーロラを見に行きたいそうです。





皆さんこんにちは!

昨年4月に新卒採用していただき間もな く1年!相談員として独り立ちすべく頑 張っている私ですが、最近は患者さんと そのご家族に関わらせていただく機会

たまふれあいクリニック



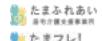
も増えて、ますますお仕事が楽しいで す!まだまだ寒い日が続きますが、負け ずに地域を駆け回りたいと思います器!

(地域相談室 相談員 池田あゆ)















〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F